令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）３年　学校番号　３３０　練馬区立大泉学園中学校

	課題分析	授業改善策
国語	授業評価アンケートでは 9 割以上の生徒が授業に興味をもち、取り組んでいることが伺える。話し合いの活動やペアでの活動に対して好意的な意見が多くあるが、単元のまとめとして行う創作活動やそれらの作品をお互いに見せ合うような活動を望む声が多くある。	・単元の最後に行う創作活動の時間を増やし、互いの作品を見せ合い、意見を交換していくことで表現力や思考力の伸長を図る。 ・また、単元に関わらず話し合いの時間を引き続きとることで、他者の意見を踏まえて自身の考えを柔軟に変化させることのできる応用力を身に付けさせる。
社会	授業評価アンケートでは、9割以上の生徒が授業内容に興味をもち、取り組んでいる事が伺える。一方で、時代の流れについての知識が整理できていない生徒や、統計資料から地域の生活を読み取れない生徒がいる。このことから、課題解決型の学習をすすめ、多面的多角的な資料の読み取りと、話し合い活動で、学び合いをすすめていくことが課題である。	・社会的な見方・考え方を身に付けることが、将来の実生活において応用できることを伝えていく。また、タブレットを利用した各単元の振り返りが、学びの向上につながっているので、授業内に終えられる様に時間をとる。 ・基礎的な知識の定着を目指し、ｅライブラリ等のプリントを活用し、定期考査や小テストで定着状況を確認する。 ・更に話し合いをすすめ、生徒の学びの向上につなげる。
数学	授業評価アンケートでは、9割以上の生徒が授業内容に興味をもち、取り組んでいる事が伺える。一方で、基礎コースで少人数授業を受けている生徒が、数学に苦手意識があり、学習が進んでいないことが課題である。今後はコースごとの特色を生かした話し合い活動を積極的に取り入れることが課題である。	・自身の考えを論理的に説明できる力を証明・解答を通して身に付けていく。また、各単元の振り返りが、自身の現状把握から、授業の受け方の改善につながっている。 ・ワーク、ｅライブラリ等を利用して、解き方を定着させ、定期考査や単元テストで確認していく。
理科	授業の実態を振り返り、また授業アンケートの結果を踏まえると、単元学習において基礎概念の理解を深めることが喫緊の課題であると考えられる。それに伴い、科学的な思考力や表現力を向上させなければならない。	・「概念の理解を深める」ためには、複数の事象を扱いつつ、適宜、共通点を確認する。それを学習ポイントとしてノートにまとめて明瞭化する。 ・「思考力や表現力を向上させる」ためには、話し合いの時間を適切に設ける。用語の言い換え（解釈）を考え、他者に向けて発表する機会を増やすことで改善を図る。
音楽	授業アンケートで、興味や関心をもつことができると回答している生徒が9割以上である。一方で、自信がなく技能の上達が遅れており、自信をもって表現できる生徒を増やしていくことが課題である。	・知覚感受に関しての意識や言語化、表出に関しての技能をさらに高めるため、話し合い活動などで知覚したことの共有・認め合いの場面を増やす。 ・また、音や表現の違いに気付かせて取り組ませるため、静かな環境で聴取の場面を増やす。
美術	アンケート結果では、8割以上の生徒が授業に関心を持っているが、4人に一人の生徒が話し合いや発表の時間が十分にとれていないと感じている。 授業時数が少ないクラスもあり、十分な鑑賞の授業時間を確保することができなかった。	・完成した作品を鑑賞し合う活動を通して、話し合い活動を促す。 ・芸術鑑賞やレポート課題を実施する。 ・タブレット端末を活用し、進捗を記録するなど振り返りを行い、制作活動を充実する。

保健体育	授業アンケートでは９割以上の生徒が意欲的に授業に取り組め、満足していると答えていた。意見では、実技のポイントの詳細がもっと知りたいという生徒がいた。また、筆記テスト対策として練習問題を解きたいと思っている生徒がいた。	・個別支援や生徒同士の教え合い学習の時間を授業で確保する。また、実技の時間以外にも、保健の授業などで、例題などを解いて解説したり、質問を受ける時間を設けたりするなど、筆記テストにつながるような授業展開に改善していく。
技術・家庭	【技術】 授業への関心や意欲は高い。粘り強く学習を調整できる生徒が多くなってきたが、定期考査や小テストなどの応用問題に課題がある。	・作業や思考に時間がかかっている生徒に対し、机間指導を増やすことで、個別の疑問や指示の再説明を行う。応用的な問題に対しては、話し合い活動を取り入れ、多角的な視点から理解を深めることで、知識の定着を図る。
	【家庭】 授業評価アンケートでは興味関心が高く、授業に前向きに取り組んでいる生徒が多い。授業や実習を多く行いたいとの意見があり、限られた授業時数の中で学びを深めていくことが課題である。	・今後の生活に活用できるよう、協働的な学びにつなげていく。実習を多く行いたいとの前向きな意見があるため、安全に実習を行える指導をした上で行っていく。
外国語（英語）	授業アンケート等から、９割の生徒が授業に興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいることがわかる。その結果、授業の中や定期考査・小テストなどで、知識技能の定着が見られるようになってきた。 一方で、自分の伝えたいことを、正しい知識を生かして「話す」「書く」となると、まだ課題が残る。	・授業の中で、基礎知識を身に着けられるように、１・２年の既習事項を復習する時間を設けている。また、知識を活用し、自分の力で正しく表現ができるように、帯学習で英作文をする時間を設けたり、small talk や story telling をする時間を設定したりするなど、自己表現の場を増やしている。